

女性議会答弁要旨

連番	氏名	質問の要点	答弁の要旨	追記事項	担当課名
1	しまだ あき 島田 亜紀	<p>中学生の荷物軽減について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生の荷物が重く成長段階の子どもにとっては負担となっている。 ・身体への負担や自転車通学での事故が懸念されるため、学校に荷物を置いておくことを許可できないか。 ・盗難などの問題については、個人の鍵付きロッカーを配置してはどうか。 	<p>中学校では、荷物を全て持ち帰る指導はせず、副教材等は学校保管としています。このことが、保護者にうまく伝わっていないため、学校に対し、伝え方の改善を依頼しました。盗難・いたずらに対しては、教室に鍵を掛ける等のでき得る対応を学校ごとにしています。来年度から資料集の一部を個人配付物から、共有物とし、個人持ち教材数を減らしていきます。鍵付きの個人ロッカーの購入については、費用対効果や生徒指導上の問題も併せて学校と考えていきます。来年度から実施する対策も含め、今までの対応策による効果の度合いを確認していきます。</p>	<p>学校ごとに、教室に鍵を掛けられる準備をしたり、教科内で副教材の使い方を見直したりしています。この取組みを継続して進めていくとともに、荷物の重さ等の実態把握にも努めていきます。</p>	学校教育課
2	さぶり はるみ 佐分利 春美	<p>障がいのある子供たちが自由に遊べる場づくりの環境整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犬山市では、障がいを持つ子供たちへの対応としてどのような事業を行っているか。 ・障がいや特性を持っている子供たちの運動を目的に公園に連れて行っても、集団が苦手であったり、ケガの心配があり目が離せない。屋内にクッション性の高い遊び場を作れないか。 ・また、時間や曜日をきめてリトミック教室を行ったり、専門性の高いスタッフを配置し安心して相談できる場とできないか。 	<p>行動障害や自閉症などのお子さんは、他のお子さんと一緒に遊ぶことが自身のストレスとなったり、保護者にとっては、常に心配りし、見守ることになるかと思いますが、本市には障害のあるお子さんに限定した自由な遊び場となる施設はありません。これは、施設整備により障害者を隔離するよりも、健常者と等しくあるよう環境整備することが重要と考えるためです。</p> <p>そこで、児童センターなどの既存の施設において、障害児向けの時間帯を設けるなどして、シェアリングによる対応を検討したいと思います。また、こすもす園開放の対象範囲も広げていきたいと考えます。</p> <p>リトミック教室や専門のスタッフの配置は、現状では困難なため、児童発達支援事業やダンスセラピーの利用をお願いします。</p>	<p>児童センターなどの既存施設のシェアについては、利用者の声も聞きながら、障害のあるお子さんとその他のお子さん双方にとって最適となるよう検討し、平成30年度中の実施に向け進めていきます。</p> <p>また、在園児及び卒園児に限って利用を認めていたこすもす園の休日開放については、平成30年度から、全ての障害のあるお子さんが広く利用できるよう改めます。</p>	子ども未来課

女性議会答弁要旨

3	<p>なかの あやこ 中野 理子</p>	<p>産後の母親支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の子育て支援で、本当に充実しているといえるか。 ・保健センターの助産師およびソーシャルワーカーなど母親に寄り添える人材が病院と綿密に連携をとり、母親の心身のケアを早期に行っていけたら、犬山市の魅力となると考える。 ・そこで、犬山市で独自の講習を行い、子育てや母親支援に関心のある方を「産後ドゥーラ」のような家事や育児を助けてくれる専門家に養成し、支援する取り組みができないか。 	<p>保健センターでは、平成29年4月から、妊娠、出産、子育ての切れ目のない支援を目的に、「すくすくいぬまる」と称した子育て世代包括支援センター事業を開始しています。</p> <p>母子健康手帳交付の時に、全ての妊婦さんと保健師などが個別に面談したり、出産予定日の1～2か月程前には、助産師から妊婦さんに電話をかけ、健康状態の確認や、出産に向けての相談に対応し、妊娠期からの相談支援を重視しています。</p> <p>必要時には子ども未来課など関係機関と連携して支援をしており、産後の家事や育児支援としてはファミリーサポート事業やシルバー人材センターなどを案内していますが、安心して子育てができるまちづくりとして、市民同士の交流を通じ、お互い様の支援ができる関係づくりを目指していきたいと考え、まずは、子育てママの不安解消を目的に、地域の子育て経験者などと交流できる場を設けたいと考えています。</p>	<p>平成30年度は、産婦や子育て経験者などが交流できる場を設け、産後や子育ての支援ニーズを把握していきます。</p>	健康推進課
4	<p>かわむら かずえ 川村 和恵</p>	<p>「楽田本町信号～犬山南高校」までの道路整備について</p> <p>① 路肩の整備について。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車の通行量が多い道路であるが、歩道が狭く、通学する学生の自転車が舗装面の車道へ大きくはみ出して走行しており、危ない。舗装の外側にある土の部分を整備したり、草を刈ることで安全を確保できると思うがいかがか。 <p>② 街路灯について。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南高校正門前～「犬山南高校西」信号までの間に街路灯が6本あるが、暗い。水田の休耕期間だけでも、明るい電球に変えられないか。 	<p>①道路保護路肩を歩行者用に整備するには多大な費用がかかります。質問の道路より北側の「市道荒井本町線」については道路拡幅整備を行い歩道があるので、安全性を重視し、歩道のある道を積極的に利用するよう地域安全課と案内していきます。また、区画線について、平成25年度にセンターラインを引き直し、外側線についても順次実施していきます。道路の草刈りについては通行上支障がある場合、必要に応じて実施するよう努めます。</p> <p>②街路灯については、現在6基（9W）が設置してあります。4基は既設のものからLEDを使用した街路灯へ、2基については新規でLED灯を増設しています。市内を同一規格で設置しており、国の交付金を活用しています。今より明るい街路灯については、現在、周辺を田に囲まれた楽田大橋交差点において耕作者の同意を得て、既設街路灯と、別途光害防止効果があり明るさも確保された特殊LED灯も設置し、耕作状況に合わせて職員で切り替えを行い、試験的に観察しています。現在は特殊製品の価格が高く、直ぐに導入することは困難ですが、今後も導入に向けた研究をしていきます。</p>	<p>①犬山南高校に対して、毎年一本北側の道路を通るように、楽田駅駐輪場使用に合わせ、指導してもらうよう、依頼しました。 【地域安全課】</p> <p>①道路の草刈りについては、必要に応じて実施します。 【土木管理課】</p>	土木管理課

女性議会答弁要旨

5	<p>あさの かずこ 浅野 和子</p>	<p>ピア・カウンセリング公開講座を犬山に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいを持つ者が地域で豊かな自立生活を行うためにはピア・カウンセリングは必要不可欠で、公開講座はこの基礎を学ぶものである。 ・市で継続的に開催すべきと考えるがどうか。 	<p>ピアカウンセリング公開講座は、ピアサポーターの発掘、障害者理解の推進にもつながることが期待できるので、他市町の状況や事業効果を研究していきます。</p>	<p>ピアカウンセリング公開講座は、三河地区で実績があり、岡崎市に確認したところ、長年開催しているものの参加者は毎年20名程度であり、うち、市内参加者が減少しているのが特に課題であるとのことでした。</p> <p>犬山市では平成24年に犬山市社会福祉協議会が実施して、参加者15名中当事者5名、支援者・関係者10名でした。開催後は浅野さん以外からは特に開催要望がないため継続開催に繋がっていない現状です。</p> <p>議会当日傍聴していた身体障害者福祉協会会員の当事者の方からは、身体障害者福祉協会と心身障害児(者)父母の会は、現在委託事業として福祉会館で当事者相談も実施しているが、相談者が少ないので開催方法や内容も含め検討が必要である、ということと合わせ、ピアカウンセリング公開講座については、浅野さんから、当事者である協会の皆さんへ詳細を説明していただき、協会としても、講座の意義を確認してから講座開催、参加者への呼びかけを市と協議したい、との意見もいただきました。</p> <p>市としても、当事者の前向きな開催意向が必要と考えますので、協会と浅野さん、福祉課と協議の場を設け、当市での講座開催について、予算を含めて検討します。</p>	福祉課
7	<p>きのした みゆき 木下 美裕己</p>	<p>遠隔地の中学生を対象としたスクールバスの運行について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今井、栗栖、入鹿地区からの通学は、交通事故、不審者、イノシン出沒など危険が多く、子育てが倦厭され、過疎化の原因となっている。中学校までの登下校の安全対策として、コミュニティバスを活用しスクールバスとして運行を検討できないか。 	<p>入鹿地区については、小学生の減少が顕著なため、今年度1週間に数回下校時に活用し、費用は保護者が負担しています。コミュニティバスの運行が来年度大幅に見直されるため、集団下校が困難な地域で活用が選択肢となるよう担当課と協議をしています。運賃は、中学生で年間55,000円程度の費用が発生すると予想されるため、負担軽減について、担当課と協議していきたいと考えています。将来的に登下校の時間帯をボランティアの方に車で数往復してもらうことも模索しています。引き続き登下校時の安全確保に向け支援をしていきます。</p>	答弁の通りです	学校教育課

女性議会答弁要旨

8	<p>おがわら かずみ 小河原 佳澄</p>	<p>病後保育の充実化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽田西子ども未来園で病後保育を実施しているが、利用詳細が分かりづらく、またどれだけ活用されているか不透明である。 ・ 病後保育について積極的に周知を行い、ホームページ上で利用状況の確認が出来るようにならないか。 	<p>病後児保育は楽田西子ども未来園で実施しています。市内在住の満1歳児から小学校3年生までが対象で、一日の定員は2名までとなっています。利用実績は平成27年度は実人数10名、延べ利用日数は102日、平成28年度は実人数10名、延べ利用日数42日、今年度は12月時点で15名の利用で延べ利用日数は58日となっています。職員は専属の看護師と保育士1名を配置し、園舎とは別棟でゆったりとした家庭的な環境の中で保育しています。利用人数は少ないですが、利用された方からはよい評価をいただいております。リピーターは増えてきています。周知については市内の私立保育園や小学校にも資料を配布したり、児童センターに病後児保育の利用の仕方の資料を張り出すなど周知に努めていきます。HPでの利用状況の確認については、現在の受け入れ方法で十分対応できている状態のため、システム化する予定はありません。</p>	<p>病後児保育の周知方法については、答弁した内容に限らず、利用者目線に立った周知が図れるよう、さらに研究していきます。 なお、病児保育の実施については、市内医療機関と協議中です。協議が不調に終わった場合、市外の医療機関での実施も検討していきます。</p>	<p>子ども未来課</p>
9	<p>いわた ゆか 岩田 裕香</p>	<p>高齢化社会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ファミリーサポートセンター事業に育児支援だけでなく、高齢者やその高齢者を介護する家族の家事や外出時の付き添いなどの援助支援を含めることはできないか。 	<p>ファミリー・サポート・センターの主な目的は子育て援助であるため、児童の送迎、託児が主な依頼内容となっており、現状では家事援助は行っていません。高齢者に対する援助については、介護保険サービスやシルバー人材センターの家事援助等があり、今後、地域の多様なサービスや、住民の支え合いの仕組みづくり等、地域における生活支援サービスの提供体制の整備に取り組んでいきます。</p>	<p>答弁の通りです</p>	<p>長寿社会課</p>

女性議会答弁要旨

10	<p>ながた ゆき 永田 由紀</p>	<p>学校教育の2学期制について</p> <p>①検証アンケートの対象は保護者全員を対象とするべきではないか。</p> <p>②2学期制と3学期制の学力差はあるか</p> <p>・特に、受験を控える中学で差が出るか検証しているか。</p> <p>③2学期制が少数派であることをどう考えているか。</p> <p>④金沢市の方針転換をどう思うか。</p>	<p>アンケートは今年度すでに実施しており、PTA役員や地区委員350名の方に協力をいただきました。他市町から犬山市に転勤してきた教員や学習塾をはじめとする公立小中学校関係者以外の幅広い立場の方からも意見を聞いています。学力差については、制度の違いに関わらず発生する可能性はあり、当市の状況は国・県との比較において把握しています。その状況に応じ、ベストの方法を探りながら授業改善の工夫をし、学力向上への努力をしています。2学期制では、早くから進路選択への支援ができる、夏休み前の躓きを挽回するチャンスがあることから、3学期制より有利ととらえています。2学期制は犬山市の教育施策の根幹であり、少数派だから3学期制へという次元の話ではないと考えています。それぞれのメリット、デメリットを理解し2学期制を実施しています。保護者の進路選択の不安に対し、評価・評定の基準や手順、情報をできるだけ公開する対応を検討しています。他の自治体が理念を変更していく状況を把握し、当市の2学期制の効果を高める手法に活かしていきたいと考えます。制度・運用において、見直しは必要であり、改善できる部分は、早速作業に取り掛かっています。2学期制の特徴を周知し、児童生徒や保護者が成果を実感できるよう努めていきます。</p>	<p>2学期制の効果に対する理解を深めるために、市民の素朴な疑問や不安に対して丁寧に答え、継続的に議論し検証を行っていきます。</p>	<p>学校教育課</p>
11	<p>のま まゆみ 野間 真由美</p>	<p>独り暮らしの高齢者への対応について</p> <p>・介護認定を受けた高齢者は住宅改修費用の補助金を受けることができるが、通常の高齢者の独り暮らし世帯に対して住宅改修補助ができないか。</p>	<p>市独自事業として平成8年度から「犬山市在宅高齢者住宅改善費助成事業」を実施し、非課税世帯及び要介護認定で非該当となった65歳以上の高齢者に対し、介護保険の住宅改修同様の住宅改修費用を助成していましたが、平成27、28年度と事業の利用者がなく、平成28年度末で事業を廃止しました。介護予防の観点から、要支援・要介護状態になる前に予防に務めることは重要であると認識しており、介護認定を受けていない高齢者が、在宅で自立した生活が継続できるよう生活環境を整える手段の一つとして、住宅改修に対する補助については研究していきます。</p>	<p>リフォーム補助については、引き続き研究していきます。</p>	<p>長寿社会課</p>